

年 組 名前:

国際協力中学生・高校生エッセイ
コンテストで最高賞を受賞

野中 真里さん

顔



タイ人の父と日本人の母を持つ自身を「ハーフ」ではなく「ダブル」と言う。「ダブルの私だからできることをしたい」と国際協力への強い思いをつづった。国際協力機構（JICA）の「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」で最高賞の理事長賞を受賞した。

コンテストは国際社会の中で何をすべきか考えてもらおうと実施された。今回は、中学生の部に2万3170点の応募があった。「まさかという気持ち。すごく驚いたがうれしい」と笑顔を見せる。

タイで生まれ、小学3年のときに甲府市内の小学校に転入した。同級生から「外国人」「ハーフ」と言われ、落ち込んでいたとき、母から「ハーフ」だと半分、何かが足

「ダブル」にできること率先

のなか・まりさん 山梨英和中2年。好きな食べ物はい料理。甲府市相生2丁目、14歳。

りない感じがする。パスポートも家も言語も二つある。ダブルの方がいいじゃない」と前向きな言葉をもらい、救われたという。

エッセイには、そんな自身の経験と、タイに奨学金を送る生徒会の活動を通じて現地の中学生とビデオ通話で話した感想を基に書いた。「画面に映る男の子は穴の開いた服を着て、生活が大変なのが伝わってきた」。数年前までタイで暮らしていても知らなかった格差に衝撃を受けた。さらに「学校に行けるだけで幸せ」と話す男の子の言葉に、勉強を面倒だと感じていた自分を恥じ、「生まれ育った環境は当たり前ではない」と感謝の気持ちを強くした。

生徒会長として募金やフードバンクなどボランティア活動に力を入れる。「タイ語が話せる自分だからこそ、タイの実情を日本の友達に伝え、交流の機会もつくりたい」。

将来、JICAなど国際支援団体で教育支援に携わるのが夢。「ダブルの私だからできる国際協力を続けたい」と目を輝かせた。（山本久美子）

(2022年2月12日付 山梨日日新聞4面)

問1

同級生から「外国人」「ハーフ」と言われ落ち込んでいた野中さんは、母親のどんな言葉によって救われたのですか。

.....

.....

問2

野中さんが、勉強を面倒だと感じていた自分を恥じ、感謝の気持ちを強くしたのはなぜですか。

.....

.....

問3

中学生のあなたができる国際協力について調べ、いくつか挙げてください。

.....

.....

.....